相模原市立博物館活動評価書

（評価期間：令和５年度）

令和６年11月

相模原市立博物館

【目次】

Ⅰ　博物館の活動評価に至るこれまでの経緯　1

Ⅱ　令和５年度 相模原市立博物館活動評価の総括　5

Ⅲ　相模原市立博物館活動評価
　Ⅲa 定量評価　10
　Ⅲb 定性評価　12

Ⅰ　博物館の活動評価に至るこれまでの経緯

平成 20 年6月に「博物館法」が改正され、博物館の運営状況の評価やその情報の提供等を行うこととされた。このため当館では、当館の使命等に基づき、**定量評価**及び**定性評価**の手法で、博物館協議会による有識者評価を経て、平成 23 年度から令和元年度までは3年ごと、令和2・3年度は2年間の、令和4年からは単年度で評価を行っている。令和4年度に引き続き、第 6 回目となる令和 5 年度の活動について評価を行った。

平成 20 年6月　博物館法改正

博物館法条文（現行）

（運営の状況に関する評価等）

第九条　博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

（運営の状況に関する情報の提供）

第十条　博物館は、当該博物館の事業に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該博物館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならない。

平成 21 年 12 月　第8期博物館協議会へ**「活動状況に関する評価計画の策定」**について諮問

第8期博物館協議会（任期：平成 21 年 11 月 20 日～平成 23 年 11 月 19 日）において、博物館評価の先進事例や当館のこれまでの活動状況を基に、評価のあり方について検討が行われた。

平成 23 年 11 月　第8期博物館協議会より**「活動状況に関する評価計画の策定」**について答申

評価のあり方について答申されるとともに、相模原市立博物館の使命として次のとおり定められた。

○　地域の歴史や文化・自然に関する資料を調査研究し、また、収集した資料を適切に保存し蓄積するとともに、その活用を図りながら地域文化を継承・発信する拠点となること

○　主体的に参加した市民と協働し、あるいは地域の諸機関と広く連携していく体制を整え、市民文化の向上に資する活動を積極的に展開すること

また、重点課題として次の項目が挙げられた。

★　常設展示のリニューアルと博物館ネットワーク計画の推進

★　関連施設・機関との連携

★ 市民との協働による博物館活動の展開

平成 24 年2月 第9期博物館協議会へ**「活動状況に関する評価計画の策定」**について諮問

第9期博物館協議会（任期：平成 23 年 11 月 20 日～平成 25 年 11 月 19 日）において評価計画及び具体的な評価の手法について検討を行った。

平成 25 年 11 月 第9期博物館協議会より**「博物館の活動状況に関する評価について」**答申

同答申において、具体的な実施方法について次のとおり策定された。

○ 定性的評価と定量的評価を組み合わせて行う。

○ 定量的評価は、博物館における一般的な数値である入館者数ばかりでなく、特に当館の重点課題の一つである市民協働に資する活動等に係わる数値について、目標値を設定した上で実施する。

○ 定性的評価は博物館の使命を達成するための当面の重点課題に対して行う。

実施の手順に際しては、重点課題を達成するために実施する事業について、まず館内部での企画内容とそれへの達成度に対しての自己評価を行い、それに対しての利用者・参加者側の評価をアンケート等の結果を基に示し、その上で**博物館協議会による有識者評価を行って**、全体的な評価としてまとめる。なお、協議会による評価は、会議の開催日程等、時間的な制約もあるため、効率的な実施に努める。

平成 25 年 11 月 第 10 期博物館協議会による**有識者評価開始**

第 10 期博物館協議会（任期：平成 25 年 11 月 20 日～平成 27 年 11 月 19 日）において、新・相模原市総合計画前期実施計画期間である平成 23 年度から平成 25 年度までの博物館の活動評価について、有識者評価を実施した。同時に、利用者統計や来館者アンケート、ボランティアによる評価等など、評価全体の方向性について検討を行った。

平成 26 年 11 月 平成 23 年度から平成 25 年度までの活動評価書を作成

平成 27 年3月 相模原市教育委員会定例会議にて報告

平成 27 年 11 月 第 11 期博物館協議会による**有識者評価開始**

第 11 期博物館協議会（任期：平成 27 年 11 月 20 日～平成 29 年 11 月 19 日）において、新・相模原市総合計画中期実施計画期間である平成 26 年度から平成 28 年度までの博物館の活動評価について、**有識者評価を開始**した。同時に、今後の評価の手法について検討を行った。

★ 常設展示のリニューアルと宇宙教育普及事業の展開

★ 関連施設・機関との連携

★ 市民との協働による博物館活動の展開

★ 博物館の基礎的な機能を果たすために必要な活動

平成 29 年 11 月 平成 26 年度から平成 28 年度までの活動評価書を作成、また、第12期博物館協議会による**有識者評価開始**

第 12 期博物館協議会（任期：平成29年11月20日～令和元年11月29日）において、平成29年度から令和元年度までの博物館の活動評価について、**有識者評価を開始**した。同時に、今後の評価の手法について検討を行った。

★ 展示教育普及事業の推進
★ 関連施設・機関との連携
★ 市民との協働による博物館活動の展開
★ 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動

平成 30 年3月 相模原市教育委員会定例会議にて報告

令和元年 11 月 第 13 期博物館協議会による**有識者評価開始**

第 13 期博物館協議会（任期：令和元年 11 月 20 日～令和3年 11 月 19 日）において、平成 29 年度から令和元年度までの博物館の活動評価について、**有識者評価を開始**した。同時に、今後の評価の手法について検討を行った。

★ 展示教育普及事業の推進
★ 関連施設・機関との連携
★ 市民との協働による博物館活動の展開
★ 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動

令和3年3月～7月 平成 29 年度から令和元年度までの活動評価を作成

令和3年9月 相模原市教育委員会定例会議にて報告

令和3年 11 月 第 14 期博物館協議会による**有識者評価開始**

第 14 期博物館協議会（任期：令和3年 11 月 20 日～令和5年 11 月 19 日）において、令和2年度から令和3年度までの博物館の活動評価について、**有識者評価を開始**した。同時に、今後の評価の手法について検討を行った。

★ 展示教育普及事業の推進
★ 関連施設・機関との連携
★ 市民との協働による博物館活動の展開
★ 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動

令和4年 10 月～11 月　令和 2 年度から令和 3 年度までの活動評価書を作成

令和 4 年 11 月　第 14 期博物館協議会による**有識者評価開始**

第 14 期博物館協議会（任期：令和3年 11 月 20 日～令和5年 11 月 19 日）において、令和 4 年度の博物館の活動評価について、**有識者評価を開始**した。同時に、今後の評価の手法について検討を行った。

★　博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動
★　展示教育普及事業の推進
★　市民との協働による博物館活動の展開
★　市関連施設・機関との連携

令和4年 12 月　相模原市教育委員会定例会議にて報告

令和 5 年 10 月～11 月　令和 4 年度の活動評価書を作成

令和 5 年 11 月　第 15 期博物館協議会による**有識者評価開始**

第 15 期博物館協議会（任期：令和 5 年 11 月 20 日～令和 7 年 11 月 19 日）において、令和 5 年度の博物館の活動評価について、**有識者評価を開始**した。同時に、今後の評価の手法について検討を行った。

★　博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動
★　展示教育普及事業の推進
★　市民との協働による博物館活動の展開
★　市関連施設・機関との連携

令和5年 12 月　相模原市教育委員会定例会議にて報告

令和 6 年 2 月～11 月　令和 5 年度の活動評価書を作成

第 1 回会議　令和 6 年 2 月 2 日（金）
第 2 回会議　令和 6 年 7 月 11 日（木）
第 3 回会議　令和 6 年 10 月 18 日（金）

Ⅱ　令和５年度 相模原市立博物館活動評価の総括

令和４年度の活動評価において指摘された事項への取組について

【指摘事項①】　人文系資料では寄贈や行政発掘など個別（偶発的）資料の収集や整理に追われることなく、市民が誇れる相模原市立博物館としての体系的コレクションの形成を目指してほしい。

【主な取組】 各分野において計画的な資料収集を行うための資料収集方針（コレクションポリシー）を令和6年度に策定する予定。

【指摘事項②】　プラネタリウムがある博物館という特色を生かし、宇宙や天文学が身近に感じられる各種事業やイベントが開催できるのは市民にとって多くのメリットがある。さらに多くの幅広い市民に関心や興味を持ってもらうために、プラネタリウムを活用しながら夜や昼の観望会、プラネタリウムでの音楽コンサートやトークショー、講演会などの新企画事業も積極的に開催すべきである。

【主な取組】 令和5年度は、プラネタリウムの多目的活用として、音楽コンサートを3回と、朗読会を2回、ベビーヨガを1回実施した。朗読プラネタリウムとベビーヨガは新規事業であり、令和6年度も継続実施の予定。

【指摘事項③】　毎月作成されているイベント・ニュースの尾崎咢堂記念館と吉野宿ふじやに関して、「ニューヨークへ桜を届けた日本を代表する政治家！尾崎咢堂を学べる！尾崎咢堂記念館」とか「江戸時代に甲州道中の宿場で参勤交代の常宿として栄え吉野宿ふじや」など、少し語彙を増したほうが「見たい！知りたい！」「子供に伝えたい！」という市民の心に感情が生まれやすい。

【主な取組】イベント・ニュースの尾崎咢堂記念館と吉野宿ふじやの紹介記事に、それぞれ「“議会政治の父”生誕の地」と「甲州道中の旅籠の名残りを留める希少な建物」の文言を入れ、施設の概要が伝わるよう工夫した。

【指摘事項④】　専門家である学芸員から話を聞くことは、幼児から学生までが地元の歴史・文化や博物学に触れる良いきっかけとなる。各学校だけでなく、他の多くの教育施設をはじめ、地域の様々な施設と連携を強化すべきである。

【主な取組】 公民館や史跡のガイダンス施設など市内の教育施設と連携して、地質、生物、歴史、考古、民俗、天文の各分野で出張講座を開催した。また、総合学習センター、市立図書館、老人福祉センター若竹園、れんげの里あらいそといった市の公共施設に加え、令和5年度に連携の覚書を締結した麻布大学いのち

の博物館において出張展示を開催するなど、地域の多様な施設・機関との連携を行った。

【指摘事項⑤】 貸出しキットの存在を知らない教員もいると思うので、貸出可能なキットの一覧表の公開と共に利用を促す広報活動も必要ではないか。

【主な取組】 令和6年2月に貸出しキットの周知や利用促進を目的に、小学校校長会の拡大役員会において、貸出しキットの紹介や申込方法の説明などを行った。

令和５年度における活動評価全体総括

【当館の使命】

○　地域の歴史や文化・自然に関する資料を調査研究し、また、収集した資料を適切に保存し蓄積するとともに、その活用を図りながら地域文化を継承・発信する拠点となること。

○　主体的に参加した市民と協働し、あるいは地域の諸機関と広く連携していく体制を整え、市民文化の向上に資する活動を積極的に展開すること。

【評価項目】

１　博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動

２　展示教育普及事業の推進

３　市民との協働による博物館活動の展開

４　市関連施設・機関との連携

○　市民との共同調査や関連機関との連携研究など、分野を超えた共同研究、及び、資料の収集・保存という博物館の役割を果たし、それらの成果を展示教育普及事業に活用していることが評価された。

具体的には、新収蔵資料や時事的なテーマを扱った企画展・ミニ展示の開催や講演会・体験学習・観察会など、幅広い層を対象にした教育普及事業が評価された。

今後、収蔵スペースの確保や常設展示の全面リニューアルに取り組んでほしいとの要望があった。

○　多くの市民団体や関連施設及び他機関と協力して博物館活動を展開していることが評価された。

具体的には、市民団体との協働により調査研究及び展示教育普及事業をはじめ、市関連施設や他機関との連携事業などが評価された。さらには、プラネタリウムを活用した多彩な宇宙教育普及事業の実施を推進してきた点も評価された。

【定量評価】

入館者数・プラネタリウム観覧者数・企画展観覧者数などはエレベーター工事に伴う3か月間の休館期間の影響で令和4年度に比べると減少している。講座参加者・講演回数はコロナ禍前と同程度の回数となっている。学芸員の講師派遣回数は過去5年間で最高の回数となった。市民の会の延べ参加者数は活動を終了した会もあるため、総数は減少しているが、参加率は同水準であり、市民の学習機会の場を維持し、生涯学習機関としての博物館として役割を果たすことができた。

【定性評価】

1　博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動（14～20 ページ）では、「資料収集及び調査研究とその成果の公表」「施設・環境の維持管理」について評価を行った。

有識者からは、学芸員の基本活動である調査研究及び資料収集が十分に行われており、関係機関との連携により新たな資料が収蔵されたことについて評価された。また、収蔵施設の維持管理のための設備の更新・改修・修繕の継続を求められた。

課題としては、資料の計画的な収集や収蔵庫の増設・拡張が挙げられた。

2　展示教育普及事業の推進（21～31 ページ）では、「企画展示・教育普及事業の実施」「宇宙教育普及事業」「様々なメディアを用いた情報発信の取組」について評価を行った。

有識者からは、収蔵資料を活用した企画展やミニ展、講演会・体験学習・観察会など、市民へ幅広く学習機会を提供したことや、プラネタリウムを活用したコンサートや講演会などが評価された。また、他機関との連携事業の取組の継続も期待されている。

課題としては、常設展示の全面リニューアルや紙媒体とソーシャルメディアの併用による費用対効果を考えた情報発信が挙げられた。

3　市民との協働による博物館活動の展開（32～35 ページ）では、「市民協働による調査研究・資料収集活動」「市民協働による展示教育普及事業」について評価を行った。

有識者からは、市民協働による調査研究や収集資料及び市民活動の発表の場を設けたことが評価された。市民協働は博物館活動の根幹をなすものであり、今後も継続することが求められた。

4　市関連施設・機関との連携（36～45 ページ）では、「関連機関との連携」「学校等への学習支援」について評価を行った。

有識者からは、地域の関係機関への学芸員の講師派遣やミニ展示の出張巡回展示が評価された。また、多様な世代・機関からの見学・研修を受け入れたことも評価された。他機関との連携が更に推進されることが期待されている。

課題として、出前授業や貸出しキットの周知方法、他機関との連携を更に推進するため

の学芸員の増員が挙げられた。

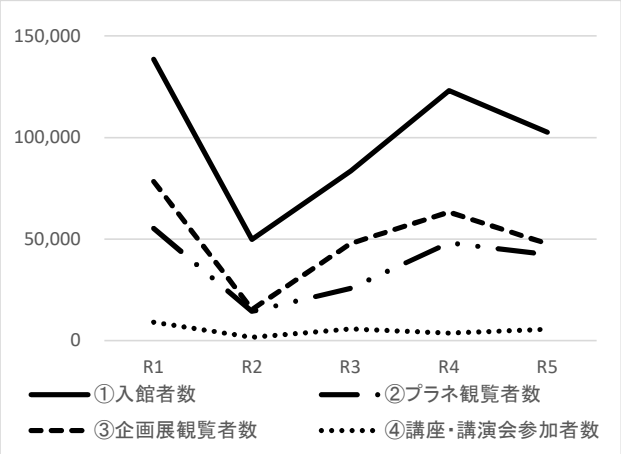
【今後の方向性】

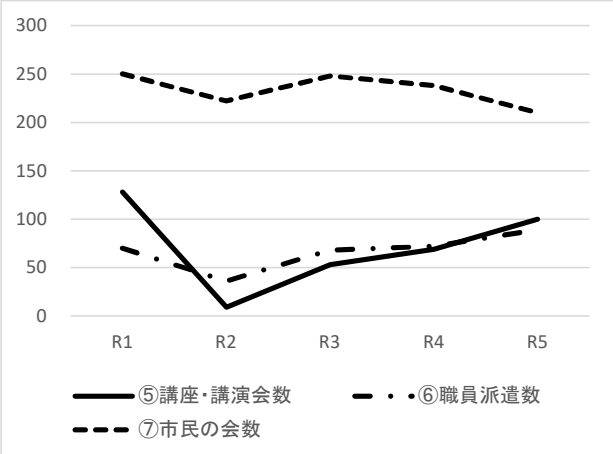
博物館の使命を果たすべく、今後とも市民協働による調査研究・資料収集・教育普及事業を推進するとともに、関連する諸機関と更なる連携に努めていく。地域博物館として種々の課題を克服しながら安心・安全・快適な施設運営に努めていく。

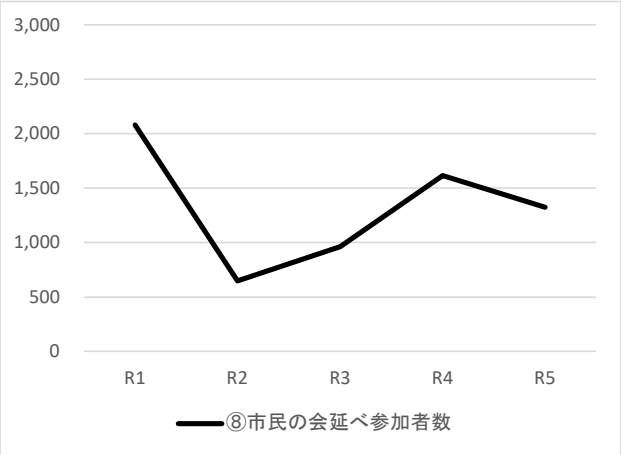
Ⅲ　相模原市立博物館活動評価
Ⅲa　定量評価

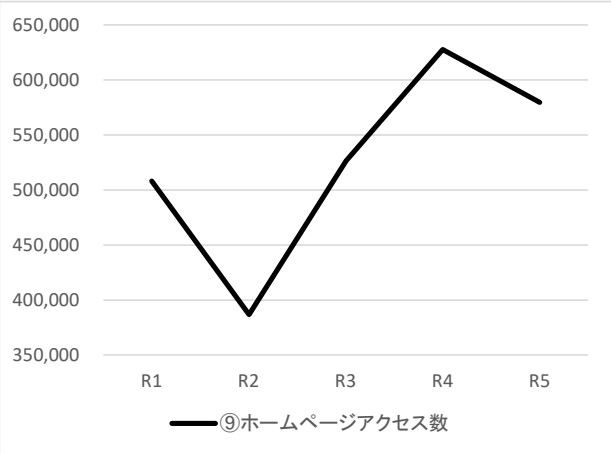
【定量評価（定量分析）資料（令和5年度）】

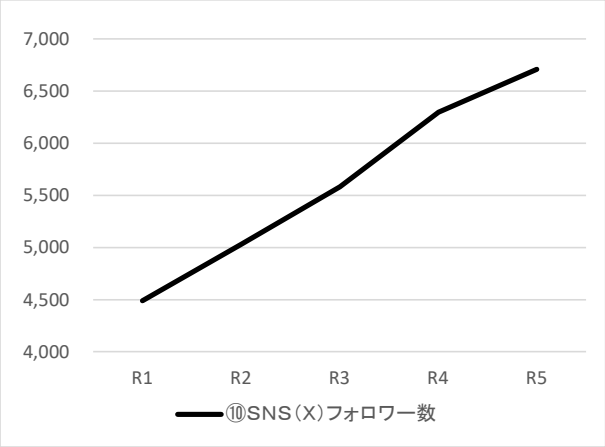
	項目	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年平均
①	入館者数	138,573	49,770	83,550	123,193	102,585	99,534
②	プラネタリウム観覧者数	55,195	14,323	25,700	48,147	42,313	37,136
③	企画展観覧者数	78,289	15,275	47,727	63,194	47,606	50,418
④	講座・講演会参加者数	8,962	1,542	5,667	3,685	5,432	5,058
⑤	講座・講演会数（延べ回数）	42(128)	5(9)	7(53)	41(69)	52(100)	28.0(90.6)
⑥	職員派遣（外部講師）数	70	36	68	72	89	67
⑦	市民の会数（登録者数）	12(250)	9(222)	10(248)	10(238)	8(210)	10.6(246.8)
⑧	市民の会延べ参加者数	2,080	649	963	1,615	1,324	1,326
⑨	ホームページアクセス数	508,070	386,706	526,359	627,459	579,594	525,638
⑩	SNS（X）フォロワー数	4,488	5,032	5,582	6,300	6,708	5,622











【令和5年度の数値について】

①	入館者数は、令和5年度は102,585人で、新型コロナウイルス感染症による年度終盤に休館期間に入った令和元年度の74.0%となった。令和4年度より減少しているが、これはエレベーター工事に伴う3か月間の休館が影響した。
②	プラネタリウムは新型コロナウイルス感染拡大に伴う定員の制限が令和3年12月まであったが、令和4年度からは従来の定員（210席）で運用している。観覧者数は令和5年度は42,313人で、令和元年度と比べると76.7%となった。令和4年度より減少しているのは、入館者数と同様、エレベーター工事に伴う休館が影響した。
③	企画展観覧者数は、令和5年度は47,606人で、令和元年度と比較すると60.8%となった。令和4年度より減少しているのは、入館者数と同様、エレベーター工事に伴う休館が影響した。
④ ⑤	講座参加者・講演回数は、延べ回数は令和5年度が100回で、令和4度より増加し、コロナ禍以前と同程度の回数となった。令和元年度より参加人数が減少しているのは、延べ回数の減少と休館が影響した。
⑥	公民館や学校等からの依頼で講師として職員派遣を行った回数は、年間70回前後を推移しているが、令和5年度は89回であり、過去5年間で最高の回数となった。
⑦ ⑧	令和4年度以降さらに2つの会が活動を終了し、8団体（登録者数210名）となった。平成4年度の一人当たりの平均参加回数は6.7回、平成5年度は6.3回であり、休館期間中の活動が制限されていたにもかかわらず、平成4年度と平成5年度の参加率はほぼ同じであった。
⑨	ホームページアクセス数は、令和4年度は約62万回、令和5年度は約58万回、平成30年度と比較して114.1%で、令和4年度より減少しているもののコロナ禍以前よりも増加している。
⑩	SNS（X）フォロワー数は令和元年度から順調に増加している。

【5年間（令和元年度～令和5年度）の推移について】

・新型コロナウイルス感染拡大に伴う休館期間が令和元年度の末から令和3年度まで断続的に続き、再開時にも講座講演、プラネタリウム等の定員制限を設けたことから、すべての数値が減少している。令和4年度は回復傾向がみられるが、定員を少なく設定している事業もあり、コロナ禍以前と同水準には達していない。令和5年度はエレベーター工事に伴う3か月間の休館期間があり、令和4年度に比べてほとんどの数値が減少している。
・エレベーター工事に伴う休館を踏まえた館外活動の積極的展開が、令和5年度の職員派遣数の増加につながっている。
・市民の会数減少は、特定の調査・研究活動について時限的な活動を行っていた会の解散などによる。
・5年平均の数値はコロナ禍のさなかにあった令和2年～3年を含むため、傾向を知るための基準とはならない。また、エレベーター工事に伴う休館期間があり、コロナ禍以後の回復傾向を検討する上では注意が必要である。

Ⅲb 定性評価

評価の数値について

4：特に優れた成果をあげている。また、その取組の成果が大いに期待される。

3：優れた成果をあげている。また、その取組の成果が期待される。

2：想定された相応の成果をあげている。また、取組のさらなる進展が望まれる。

1：期待された成果に及んでいない。また、取組が不十分である。

※「段階評価」および「有識者評価」の数値は有識者による数値評価の平均点である。

有識者意見について

有識者からいただいたコメントを原文のまま記載した。

定性評価項目及び評価

評価項目	自己評価	有識者評価	段階評価
1 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動			
1 - 1 資料収集及び調査研究とその成果の公表			3.1
1－1a 調査研究の遂行	3	3.4	
1－1b 収蔵資料の充実	3	2.9	
1－1c 収蔵資料の活用	3	3.1	
1－2 施設・環境の維持管理			3.0
1－2a 資料保管のための適切な環境の維持	3	3.0	
1－2b 施設・設備の維持管理	3	3.0	
2 展示教育普及事業の推進			
2 - 1 企画展示・教育普及事業の実施			3.9
2－1a 企画展示・ミニ展示の開催	4	3.9	
2－1b 教育普及事業の実施	4	3.9	
2 - 2 宇宙教育普及事業の実施			3.8
2－2a 宇宙分野関連の企画展示・ミニ展示の開催	4	3.7	
2－2b 宇宙分野関連の教育普及事業の実施	4	3.9	
2 - 3 様々なメディアを用いた情報発信の取組			3.1
2－3a インターネットによる情報発信	3	3.0	
2－3b その他の情報発信	3	3.1	
3 市民との協働による博物館活動の展開			
3 - 1 市民協働による調査研究・資料収集活動			3.1
3－1a 市民との協働による調査研究	3	3.0	
3－1b 市民との協働による資料収集・整理	3	3.1	
3 - 2 市民協働による展示教育普及事業			3.4
3－2a 市民との協働による教育普及事業	3	3.0	
3－2b 市民との協働による博物館活動の成果発表	4	3.8	
4 市関連施設・機関との連携			
4 - 1 関連機関との連携			3.8
4－1a 他機関・団体への講師派遣、協力	4	3.7	
4－1b 他機関での展示	4	3.9	
4－1c 他機関と連携した事業	4	3.9	
4 - 2 学校等への学習支援			3.1
4－2a 出前授業	3	3.0	
4－2b 資料貸出による学習支援	3	2.7	
4－2c 見学・職業体験・教員研修・博物館実習生の受入	4	3.7	

1 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動

1 - 1 資料収集及び調査研究とその成果の公表

段階評価：3.1

1 – 1a 調査研究の遂行

【主な取組】

・考古分野：川坂遺跡の出土品の整理作業を行い、文化財保護課と共著で川坂遺跡第4次調査報告書を刊行した。新収蔵品について資料調査を行い、その報告と評価を当館研究報告に掲載した。また、当館所蔵資料を含む縄文時代初頭の石器群について、論考を執筆し外部に投稿した。縄文土器圧痕調査成果をテーマにしたミニ展示やワークショップに関連し、相模原縄文研究会と共に下原遺跡の縄文土器圧痕調査やコクゾウムシの生育調査を行った。文化財保護課、神奈川県公園協会とともに津久井城跡城坂曲輪群 7 号曲輪の発掘調査を市民協働調査で実施し、当館エントランスにて調査成果の速報展を開催した。

・民俗分野：寄贈された神楽資料について、福の会と相模里神楽垣澤社中と協働し、整理及び資料調査を行った。また、「関東大震災と相模原」展開催にあたり、相模原市内および周辺地域の関東大震災関係の石造物の調査を地質の学芸員と共同で実施した。調査・研究成果の一部は日本地質学会第 130 年学術大会で報告した。

・歴史分野：令和 4 年度に開催した大河ドラマ関連ミニ展示に向けた調査を継続し、市域及び近隣の徳川家康ゆかりの地について歴史講座を行った。また、津久井地域の産業、光が丘地区の都市形成について調査し、その結果を市内の学校・公民館等で講義した。市民との協働による「学習資料展」の開催にあたり、昭和 20 年代後半～40 年代の子どもの遊び・娯楽について調査研究し、研究報告第 32 集に報告を掲載した。

・生物分野：市内の動植物相調査及び、その中で明らかになった絶滅危惧生物の保全、増殖のための調査について近隣大学等と連携しながら実施。

・地質分野：相模原市内、相模川・桂川流域及び関東平野西縁部の地形地質調査を実施した。また、相模原市内および周辺地域の関東大震災関係の石造物の調査を民俗の学芸員と共同で実施した。調査・研究成果の一部は日本地質学会第 130 年学術大会および研究報告第 32 集で報告した。相模野台地の微地形調査は相模原地質研究会と協働で実施した。富士相模川泥流堆積物については東京都立大学との共同研究を行った。

・天文分野：新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、長期にわたり休止していた「天文電子かわら版」（天文展示室内にあるタッチ操作式モニター展示物）の動作ファイルを新規制作し、その方法について、博物館研究報告にて公表した。令和5年度 JAXA 連携企画展「富士のある地球～火山を持つ太陽系天体たち～」の開催にあたり、市内近郊で富士山が観察可能な地点及び資料、地球や太陽系天体の火山について調査研究を行い、博物館研究報告にて公表した。

自己評価：3

【有識者意見】

・計画的かつ継続的な調査と研究が必要である。

・調査研究は学芸活動の基本を支えるものであり、博物館の重要な機能の一つである。博物館は多くの教育普及事業や展示を行っているので、学芸員がオーバーワークとならないよう、行政や管理者には是非理解を願いたい。学芸員の専門性を担保する上でも、他機関や施設との共同研究ならびに学会への参加や研究報告が積極的にできる環境整備を望む。

・市民や大学と共同で活動することで、より広く深い事業への発展も期待できると考える。

・生物分野で、絶滅危惧種の保全・増殖のための調査に関して個人的に大変興味深いです。昨今気になることで、外来種のオレンジ色のポピー（名前が出てきません）が道端のあちこちに咲いています。こういう外来種と、絶滅危惧種との間にバランスの崩れる要因があるのでしょうか？素人ながら気になります。また、このポピーを見つけたら市民としてどうすればよいのか、理由を含めた具体的な行動例を知りたいです。

・博物館のバックボーンとなる調査研究及び資料収集がしっかりなされ、成果の発表までなされていることは十分評価に値すると思います。

・市民との共同調査や、関連機関との連携研究、分野を超えた共同研究が着実に推進されており、総合博物館である意義を踏まえ、さらに推進して頂きたい。

・館内はもとより、学会や館外で報告することも重要で、博物館の研究水準の向上や社会的評価を高めていくことにつながるものとなる。

有識者評価：3.4

1－1b 収蔵資料の充実

【主な取組】

・**博物館全体**：令和 5 年度末の時点で博物館収蔵資料点数は 266,458 点（前年度比 1.01％増）。特に増加したのは歴史資料であり、約 291 点の新規登録。

・考古分野：発掘調査報告書刊行済の出土品の受入及び再整理、寄贈資料の整理作業、鉄製品の保存処理。

・**歴史分野**：寄贈・寄託（予定含む）資料の分類整理、尾崎行雄（咢堂）関係資料の分類整理、旧津久井郷土資料室所蔵資料の整理。

・**民俗分野**：民俗資料の収集、収蔵資料のカード・収蔵番号の整備、旧津久井郷土資料室所蔵資料の確認等の諸整理。寄贈された竹細工道具の整理。収蔵資料と市内の民俗に関する写真についての再確認や整理。

・**生物分野**：動植物資料の収集及び標本の作製・整理、適正な保管を目的とした点検作業。東京都立大学牧野標本館との標本交換により、牧野富太郎博士採集の植物標本など 30 点を新たに収蔵。

・**地質分野**：地質資料の収集及び標本の作製・整理、収蔵資料の整理。

・**天文分野**：分野天体・天文現象・太陽の撮影やデータの整理。インターネットによる公開天文台ネットワーク等からの画像収集。小惑星探査機「はやぶさ」、火星探査機「のぞみ」および工学実験衛星「ひてん」の原寸大模型の寄贈。

自己評価：3

【有識者意見】

・相模原を知ろうとする人や相模原の明日を考える人にとって必要な、相模原の文化や自然を次世代に伝達するには、どのようなコレクションが必要なのかを検討して資料収集は行う必要がある。それが相模原の博物館の存在意義だと思う。

・昔の資料だけでなく、平成・令和期の資料収集も必要なので、今後も計画的な収集をお願いしたい。積極的に資料の提供を市民に呼びかけるなどして、失う前の収集を検討してほしい。

・収蔵資料類のストックは増加傾向にあると思われるが、現状の収蔵庫での収蔵能力が限界を超える懸念があるならば、新たな収蔵スペースの確保は急務である。統廃合で廃校となった教室などの再利活用も一考であろう。

・各分野ごとの収蔵資料は、データベース化した上で、全分野を統合して一括管理・利用できることが望まれる。

・新たな資料を収集するだけにとどまらず、再整理や点検にも力を入れていることで、資料の収集、保管という博物館の役割を果たしていると思う。

・収集資料の整理は、地味で時間のかかる仕事ですが、それが今後の活用の源となるので今後も頑張ってやってほしいと思います。

・日本の博物館の大きな課題の一つに収蔵庫問題がある。当館も開館 30 年近くを迎え、収

蔵庫が満杯に近づいてきており、増設について検討を進める時期に来ていると言える。

・関係機関との連携により、牧野富太郎博士採集の植物標本や探査機の原寸大模型などが新たに収蔵されたことについては、特筆事項として評価したい。

有識者評価：2.9

1－1c 収蔵資料の活用

【主な取組】

・他館への資料貸出、調査研究のための資料閲覧、写真データの提供等、令和 5 年度の資料の特別利用は 86 件。

・新収蔵品を活用した考古企画展や石の岩石写真による地質企画展等、特別展示室での企画展を 7 件開催。

・当館所蔵の縄文土器資料からみるコクゾウムシの展示や、憲政擁護運動と尾崎行雄の関係等、エントランスや常設展示室内等でミニ展示を 15 件開催。

・東京都立大学牧野標本館との標本交換により新たに収蔵資料となった牧野富太郎博士採集の植物標本 30 点のうち、4 点をミニ展示で公開。

・市内で錯誤捕獲されたツキノワグマを標本化し、新規収蔵資料としてミニ展示で公開。

自己評価：3

【有識者意見】

・博物館外へ貸出可能な収蔵資料や標本類などを記した一覧表やファイルなどは整備されているのか。

・ミニ展示という取り組みにより、貴重な標本・資料類が臨機応変の対応ができる速効的な展示効果を期待できると思うので、今後も期待したい。

・博物館を入ってすぐに展示されている「はやぶさ」などの原寸大模型の展示は、その大きさもあって非常に目を引き、興味をそそられます。

・常設展はいつ行っても変わり映えしない印象があります。（定期的に資料の入れ替えをしていたら申し訳ありません）

・新収蔵品をいち早くミニ展示等で活用している点は高く評価されます。ドラマ等で話題になっている事柄の関連展示も関心を集める良い試みであると思います。

・間もなく開館 30 周年を迎え、常設展示の全面リニューアルは喫緊の課題である。

・資料の保存と活用は相反する行為であるため、悩ましい問題であるが、収蔵品展や企画展にとどまらず、予算を増強した特別展や出前展示などの開催も検討してほしい。

有識者評価：3.1

１－２　施設・環境の維持管理

段階評価：3.0

１－2a　資料保管のための適切な環境の維持

【主な取組】

・収蔵庫及び作業室を対象に、各種トラップを用いて有害生物の侵入状況を調査。大型資料収蔵庫シャッター付近床面への薬剤散布の実施。

・カビ及び酵母を対象に空中浮遊菌検査の実施。

・大型資料収蔵庫、考古資料収蔵庫、地質資料収蔵庫の空間殺虫処理の実施。

・受入資料を対象に、殺菌、殺虫、殺卵のため、ガス薬剤を用いて洗浄・乾燥室において被覆法によりくん蒸を実施。

・館内空調の根幹設備である冷温水発生機２基のうち１基を更新

自己評価：3

【有識者意見】

・収集した貴重な資料類を長期にわたって保管・管理することは地味な作業であるが、大事な取り組みである。今後も館内の収蔵施設の維持管理のため、定期的な環境維持作業の継続を望む。

・近い将来に向けて、収蔵庫の増床について検討が必要な時期かと考える。

・貴重な資料の保管は、資料の収集と同等或いはそれ以上に重要であることを行政機関等に理解いただき、十分な予算等が振り分けられることを期待したいと思います。

・冷温水発生機は、館内空調の根幹設備であるため、老朽化による交換が手遅れとなる前に実現したことは評価したい。

有識者評価：3.0

1－2b 施設・設備の維持管理

【主な取組】

・安心、安全な環境を維持し、さらに快適で魅力ある施設運営のため、下記の設備整備、修繕等を実施。

・館内空調の根幹設備である冷温水発生機 2 基のうち 1 基を更新

・博物館内にある全 3 台の油圧式エレベーターのうち 2 台を、機械室レス型のロープ式エレベーターに改修

・高圧受電設備等の修繕を実施

自己評価：3

【有識者意見】

・来館者に対する、より充実したサービスの一環として、WI-FI の整備やスマートフォン活用による多言語対応の展示ガイドの導入は必須項目である、これらの利活用を推進するための PR や広報にもご尽力願いたい。

・2階の休憩スペースが「知る人ぞ知る場所」のようなイメージで、もったいない気がします。

・収蔵庫の修理や拡張等の予算処置を要望する必要があると思います。

・博物館の延命措置として、定期的な機器の更新・改修・修繕は重要であり、引き続き継続してほしい。

有識者評価：3.0

2 展示教育普及事業の推進

2 - 1 企画展示・教育普及事業の実施

段階評価：3.9

2 – 1a 企画展示・ミニ展示の開催

【主な取組】

※天文分野を除く（天文分野 2-2a）

・企画展示

・考古分野、地質分野、生物分野の企画展、学習資料展を開催。観覧者数 50,017 人、入館者数全体の来場者数の割合は平均して 48.7％（前年度は 61.8％）。

・体験学習、講演会、ワークショップ、展示解説等を企画展関連事業として実施。

・ミニ展示

・生物分野、民俗分野、考古分野、歴史分野、市史分野、博物館実習生、関東大震災関連のミニ展示を開催。

・トークショー、実演会、ワークショップ、展示解説等をミニ展関連事業として実施。

・「尾崎行雄を全国に発信する会」へ委託し、ミニ企画展「憲政擁護運動と尾崎行雄（咢堂）」を開催。

・吉野宿ふじや

・「NPO 法人ふじの里山くらぶ」へ委託し、企画展を開催。

・「甲州道中（相模湖・藤野・上野原）のおひな様」展、観覧者数 553 人
また、ふじの里山くらぶ主催で山下勉 絵画展を開催。観覧者数 241 人

【市民の意見】

（企画展アンケートより）

・市内の史跡、遺跡の展示会を又、お願いしたい。特に古代（旧石器とかを含む）～戦国までのもの。（考古企画展）

・これからも相模原市教育委員会（考古学）の方々や JAXA と連携した展示や企画を楽しみにしている。（考古企画展）

・学生時代に薄片を作り、偏光顕微鏡で観察し、卒論を書いたことが思い出され大変懐かしく展示を拝見しました。一般にはあまり知られていない美しい色をもつ石の薄片を知らない人にもわかりやすく展示していると思います。（地質企画展）

・薄片の作り方　多くの過程を経てやっと観察できるようになったのだと分かり感動した。横から岩石の厚さが比較できてよかった。（地質企画展）

・市民学芸員の遊びの思い出は、自分も懐かしいものもあったりして共感できた。（学習資料展）

・黒電話を子供たちは、触ったこともなかったので興味深かったようです。（学習資料展）

・全て素晴らしく、生き物のかわいらしさに感動しました。見て癒されました。（わぉ！な生きものフォトコンテスト写真展）

（吉野宿ふじやアンケートより）

・今回のイベントで初めて知る施設も多く、楽しめた。おひな様におくられた子・本人も、また親の思いが大きいお祝なのだと改めて感じた。

・相模原に40年間住んでいて知らない場所があり、2日間に分けて家族で楽しみました。ありがとうご座います。

・スタンプラリーのおかげでおでかけできます。季節毎にもスタンプラリーがあると楽しいですね。この様なイベントがなければふだん来られなかったので良かったです

・各施設それぞれ工夫されていて、趣も異なりよかった。このような催しがあると初めての所にも行くことになる。施設によって雛飾りががもう少しあっても良いなと思う所もありました。

自己評価：4

【有識者意見】

・可能な限り企画展やミニ展示を実施したことは高く評価できる。

・来館するたびにエントランスのミニ展示が目新しく、効果的であると思う。企画展やミニ展示の成果を常設展示に反映されるような取り組みが必要であろう。

・アンケートの内容からも、来館者にとって非常に満足度の高い展示であったことが伺える。

・ミニ展示は身近で親しみやすいものから、啓発や問題提起するものまで幅広く取り上げられていて見ごたえがあり、面白かったです。

・企画展示・ミニ展示はタイムリーで工夫が凝らされており、素晴らしいものばかりで評価に値すると思います。是非大勢の観覧を期待したいところです。

・収蔵品展や企画展にとどまらず、予算を増強した特別展の開催を切望する。

・スタンプラリーなどのイベントには、引き続き取り組んでほしい。

有識者評価：3.9

２－1b 教育普及事業の実施

【主な取組】

※天文分野を除く（天文分野 2-2b）

・考古分野の連続講座（全 2 回）を開催。延べ参加者数 26 人。

・4 件（生物分野２件、歴史分野１件、民俗分野１件）の講演会を開催。延べ参加者数1,128人。

・11 件（地質分野 3 件、考古分野 3 件、民俗分野 1 件、歴史分野 1 件、その他 3 件）の体験学習を開催。延べ参加者数 2,252 人。

・生物分野の観察会（全 11 回）を開催。延べ参加者数 325 人。

・1件のクイズラリーを開催。延べ参加者数 623 人。

・常設展示室へのスマートフォン等を活用した多言語対応の展示ガイドを 8 件追加

【市民の意見】

（講座等アンケートより）

・講座の内容はもちろんですが、探訪もとても楽しく面白かったです。お話を聞かなければ全く分からないことばかりで大変興味深い2時間でした。（考古学講座）

・足で歩く講座大賛成！これからもどんどんやってください！できれば、もう少し涼しくなってきてからだとありがたい。（考古学講座）

・いかに植物の名を定めているのかを知ることができました。標本の作り方や、保存の難しさを学ぶことができました。（牧野富太郎展トークショー）

・学芸員の話し方や説明がわかりやすく、よかった。それがなければ講師の話が専門的で理解しづらかった。（牧野富太郎展トークショー）

・渋沢栄一の行動のみならず、考えなど、よりくわしく知ることができた。この講演会で生まれた新たな疑問を調べたりして、自分なりの答えをみちびきだしていきたいと感じた。（近現代史講演会）

・写真や資料がたくさんあって目を引いた、肉声も初めて聴けてよかった。（近現代史講演会）

・アマビエ～河童まで興味深くきかせていただいた。研究範囲の広さ、奥行きが感じられ、話の仕方が実に優しくわかりやすかった。（民俗学講演会）

・圧痕の調査に興味があったので実際に行ってみて難しさを実感できてよかった。（考古ミニ展ワークショップ）

・遊べるコーナーもあり、昔のことを話しながら、子供たちに伝える機会・きっかけができて楽しい時間をすごせた。（学習資料展）

自己評価：4

【有識者意見】

・市民にとって、学芸員の話を直接聞いたり資料や標本に触れたりする学習はとてもインパク

トのある体験となって記憶されるので、今後もより多くの講演や体験学習などを実施していただきたい。

・初学者からより深く学びたい人まで幅広い層がいるなかで、新たな教育普及のための内容を考えるのは大変だろうと思う。このような取り組みがあることで、どんな市民でも教養を得られる機会があるのは有難い。

・タイムリーなテーマで企画されていて、参加者の満足度が高いのを感じました。

・講演会・体験学習・観察会等、それぞれの企画にあった事業の展開はとても良いと思います。参加者の期待する内容や基礎知識の違い等を考慮して企画するのは大変でしょうが、体験や成果物を持ち帰れることは、家庭での話題等への発展も大いに期待できることでしょう。

・常設展示の鳥の剥製をスケッチしている来館者を見たことがあります。また、昭和初期の家庭用品等の常設展示を実際に触ってみようなど、常設展示の活用を図ってはどうでしょうか。

・コロナ禍の中で削減を余儀なくされた教育活動も復調がみられ、博物館ならではの体験型を中心とした市民向け事業のさらなる展開を期待したい。

有識者評価：3.9

２－２ 宇宙教育普及事業の実施

段階評価：3.8

２－2a 宇宙分野関連の企画展示・ミニ展示の開催

【主な取組】

・JAXA 連携企画展「富士のある地球～火山を持つ太陽系天体たち～」を開催。総観覧者数 17,180 名。

・「全国小・中学生作文絵画コンテスト」（JAXA 事務局）において、当館に応募された作品のうち、館内審査で入賞した作品を展示。小学生部門作文の部において、当館で最優秀賞に選ばれた作品が全国審査において、主催者賞である「日本宇宙少年団理事長賞」を受賞。

・JAXA 宇宙科学研究所が開発運用した「工学実験衛星『ひてん』（実寸大）」、「電波天文観測衛星『はるか』（1/20）」、「小型高機能科学衛星『れいめい』（実寸大）」の模型を借用し、常設で展示を開始。

・JAXA 相模原キャンパス宇宙科学探査交流棟内の博物館資料展示スペースにおいて、「キャンプ淵野辺の返還［歴史分野］」（令和 6 年 2 月～）を開催。

・麻布大学いのちの博物館連携での出張ミニ展示において、写真展「富士のある地球」を開催。総観覧者数 386 名。

【市民の意見】

（JAXA 連携企画展アンケートより）

・日本人に親しみある富士山について、くわしく書かれていてよかった。

・写真がスバラシかった。ポイントを予測して、追い求めてゆく。努力が像になった。

・富士山の写真がきれいで、地球とほかの太陽系天体が火山というテーマで繋がっていて、面白かったです。

・宇宙から見た富士山、さらにその宇宙で活躍する探査機の役割を見られたのが良かった。

・はじめは、富士山と宇宙の関係性やJAXAがつながっていると思わずに見ていたら、スペースデブリ（宇宙空間で制御不能になった人工物）の問題、太陽系天体の火山を観測する衛星とつながり、すばらしいテーマだとおもいました。

・JAXAとの連携の企画展を毎年楽しみにしています。これからもこのような親しみやすい企画をよろしくお願いいたします。

自己評価：4

【有識者意見】

・JAXA の評価や JAXA が抱えている課題などを、博物館として発信することが、JAXA との連携になると考えます。

・JAXA との連携も重要であるが、JAXA に頼らない博物館独自の企画を展開し、次世代につなげていくことも検討してはどうか。博物館独自の事業のアピールも進めていくべきである。
・情報の移り変わりの多い宇宙についての展示はとても楽しく、来るたびに新しいことを知ることができるため、今後も継続してほしいと思う。
・JAXA との連携は、互いの立地を生かすべきで、これからも創意工夫をして様々な展示を期待しています。博物館としての特徴をどのように企画の中に生かしていくかが重要かと思います。
・改正博物館法でも強化されているが、JAXA や麻布大学いのちの博物館など関係機関との連携展示の取り組みは、今後も推進されることを期待したい。

有識者評価：3.7

２－2b 宇宙分野関連の教育普及事業の実施

【主な取組】

・JAXA 宇宙科学研究所と連携した講座 4 件、講演会 8 件（うち、1 件は企画展関連事業）を実施。講座延べ参加者 314 人、講演会延べ参加者 825 人。

・JAXA 相模原キャンパス特別公開における各種イベント等、JAXA と連携した体験学習事業を 4 件実施。延べ参加者 741 人。（一部 JAXA 宇宙科学研究所と連携した講座・講演会にも含む）

・相模川ビレッジ若あゆとの連携事業「博物館×若あゆ　宇宙＆野外炊事イベント」を実施。両施設を事業で利用。参加者 33 人。

・天体観望事業「ナイトプラネタリウム＆観望」を実施。休館期間を除き月 2 回（計 18 回）開催。延べ参加者 1,013 人。

・昼間の天体観望事業を 3 回実施。延べ参加者 387 人。

・「親子天文教室」を実施。参加者 45 人。

・座談会事業を 1 件（JAXA 宇宙科学研究所と連携した講座・講演会にも含む）実施。参加者 126 人。

・プラネタリウムにおける星空解説の実施、全天周映画の上映。観覧者数 42,313 人（うち、7,970 人が学習投影等団体向け貸切投影）。

・プラネタリウムにおいて日曜日・祝日限定の「おためしタイム」事業を実施。観覧者数 2,020 人（計 51 回投影）。

【市民の意見】

（親子天文教室アンケートより）

・望遠鏡を自分で作り、観測！とても感激しました！とてもやさしく説明して下さってありがとうございました。望遠鏡の仕組みなど、とても勉強になりました。観測室と比べられたのもとてもよかったです。

・子供と物を作ることができ大変楽しかったです。子供が月や星に興味をもち、望遠鏡を作り観察できるようになって、月や星や宇宙にもっと興味をもってくれたらと思います。

自己評価：4

【有識者意見】

・宇宙教育には気象分野も含まれており、人々の生活と宇宙や気象のかかわりがわかるような事業を、市民活動とうまく結びつけて展開すべきである。

・プラネタリウムがある博物館という特色を生かし、宇宙や天文学が身近に感じられる各種事業やイベントが開催できるのは市民にとって多くのメリットがある。さらに多くの幅広い市民に関心や興味を持ってもらうために、プラネタリウムを活用しながら夜や昼の観望会、プラネタリウムでの音楽コンサートやトークショー、講演会などの新企画事業も積極的に開催

すべきである。特にプラネタリウム施設を舞台にしたコンサートなどはユニークな取り組みとして話題性もあり、継続することでファミリー層や高齢者の市民への参加も促したい。

・ドームで上映する全天周映画の内容も、天文や宇宙に関する科学教材的なものだけでなく、生き物、恐竜、化石、海、魚、鳥、動物、昆虫、植物など、幅広い題材をテーマとした映画の上映はできないか。

・「親子天文教室」のような、親子で楽しめて工作物・作品等を持ち帰れる企画を増やしていってもらいたいと思います。プラネタリウムという特徴を生かしながら独自の試みは大いに評価できます。他のプラネタリウムを所有する博物館も参考になるものだと思います。

・展示同様、JAXA や相模川ビレッジ若あゆなど関連機関との連携事業の取り組みは、今後も推進されることを期待したい。

有識者評価：3.9

２－３ 様々なメディアを用いた情報発信の取組

段階評価：3.1

２－3a インターネットによる情報発信

【主な取組】

・プラネタリウムの番組情報や混雑状況、イベント情報の発信や、天体・天文現象の写真や動画、博物館の日常の風景や展示等を紹介。主な媒体は下記のとおり。

・博物館のホームページ

・X（フォロワー数 6,708）※令和 6 年 3 月末時点（前年同期+408）

・Instagram（フォロワー数 510）※令和 6 年 5 月時点（前年同期+110）

・「相模原市立博物館の職員ブログ」

・「ネットで楽しむ博物館（公式 YouTube チャンネル）」（配信動画数 10 件）

自己評価：3

【有識者意見】

・発信量は天文と生物に偏りがちである。各学芸員の力量もあろうが、市民学芸員に下請けに出すのではなく、市民学芸員、博物館利用者の発信を共に創りあげる工夫が欲しい。

・ホームページや動画は、若い世代に向けて情報発信をするためには有効な手段である。できるだけ若い世代の意見を取り入れて、随時内容の更新を図るべきである。

・スマートフォンでホームページを閲覧する方も多いので、フォントや色使いなどスマートフォンでも見やすくなるような工夫をするべきである。また若い世代には SNS を活用した情報発信が効果的なので、さらなる活用を検討してほしい。

・「ネットで楽しむ博物館」は動画で楽しむこともできるので、理解しやすい。今後も内容の充実をお願いしたい。

・SNS を活用した情報発信は、イベントだけではなく研究成果なども含めた博物館の価値を提供すべきである。

・小中学校でもタブレットやパソコンが授業に取り入れられているため、日常的な学習の一環として、博物館の動画を教材として使うことができれば良いと思う。

・HP や SNS は博物館を知る一番身近なツールで、費用対効果を考えても今後も充実していってほしい。「いいね」を押すだけでなく、画像を見て来館に繋がるようになっていってほしい。

・博物館の X をフォローしています。こまめに更新されていて頭が下がります。これからも頑張ってください。

・ホームページや SNS による情報発信は今や常識となり、博物館のそれらも充実していると思います。ただ、これらはネット上に乗せれば見てもらえるのもではなく、そこに見に行かな

ければ情報が得られないという特徴があり、いかに見てもらえるきっかけを作るかがポイントだと思います。予告についてはチラシの画像で良いと思いますが、実施した企画等の様子を是非ホームページの本体で見られるようにしていただけないでしょうか。インスタグラム等はログインが必要なので、せっかく面白そうな内容に直接行けません。QR コードは便利ですが、一つのサムネイル画像でも配置すると良いと思います。

・若者に向けた情報発信には欠かせないものであり、フォロワー数の一層の増加に期待したい。

有識者評価：3.0

２－3b その他の情報発信

【主な取組】

・プラネタリウムを利用したコンサート事業を計 3 事業（参加者計 631 人）、朗読プラネタリウム事業を 2 件（参加者延べ 380 人）、プラネタリウム内で行うベビーヨガ事業を 1 件（参加者 26 人）実施。

・広報さがみはらへの博物館諸活動の掲載

・報道機関への情報提供等、メディアを多角的に広げた情報発信

・1 か月分の博物館の事業を一覧できる資料として、「博物館イベントニュース」の発行（年 9 回）

・タウン紙への企画展紹介コラムや常設展示紹介等の不定期連載

・FMHOT839（エフエムさがみ）、NHK、日本テレビ、テレビ朝日等のテレビ、ラジオ番組による企画展の紹介や、市域の自然に関する情報発信

・本市のみんなの SDG’s 推進課や緑区役所地域振興課のほか、「北条五代観光推進協議会」が主体となって実施したデジタルスタンプラリーに参加

自己評価：3

【有識者意見】

・「イベントニュース」を市内の全小中学校に配布することも検討すべきである。

・高齢者への広報は、アナログの方が効果的と思う。「イベントニュース」の有効活用として各自治体等への回覧や配布を検討していただきたい。

・プラネタリウムという独特の雰囲気を利用した企画は、心に残るものとなると感じます。
私も以前プラネタリウム会場で、和泉短大の方たちによるハンドベルコンサートに参加し、そう感じました。プラネタリウムを会場に、様々な可能性が広がりそうですね。

・市の広報やタウン誌・自治会の掲示板などのアナログメディアは、ネット上の情報と違い自然と目に留まるものです。その特徴を生かして博物館ホームページへ導く作戦が良いと思います。大いにアナログを活用すべきだと思います。

・「博物館イベントニュース」は手元における利点があります。

・高齢者化社会です紙媒体はやはり大事だと感じています。

・私は、なかなか博物館に足を運ぶことができずにいますので、1年間分、綴じておき活動評価の振り返りに利用しています。

有識者評価：3.1

３ 市民との協働による博物館活動の展開

３－１ 市民協働による調査研究・資料収集活動

段階評価：3.1

３－1a 市民との協働による調査研究

【主な取組】

・考古分野：相模原縄文研究会との協働で下原遺跡の縄文土器圧痕調査やコクゾウムシの生育調査を実施。津久井城市民調査グループとの協働で津久井城跡城坂曲輪群７号曲輪の発掘調査を実施。

・民俗分野：福の会と協働で上溝番田の神代神楽資料の聞き書き調査を実施。

・生物分野：相模原植物調査会と協働で市域の植物相調査を実施。

・地質分野：相模原地質研究会と協働で市域の地形調査を実施。

自己評価：3

【有識者意見】

・団体（調査会など）だけでなく、一人ひとりの個人の方々との協働が見えると、市民の主体的調査研究が推進されると思う。

・博物館は集団学習の場ではない。学芸員は学習指導者ではない。利用者が自らの教育目標に従い、自己教育を実現する場である。

博物館の施設や設備、職員（学芸員）はその条件として整備したのであり、博物館基本構想も「市民の研究センターとしての役割」を市民に約束している。

・市民協働は博物館活動の主軸に一つである。市民が博物館活動に参加することのメリットは博物館にとって非常に多い。多くの市民団体に支えられており、今後も協働で調査研究を遂行するようにお願いしたい。

・市民との協働による調査研究の成果は、「学びの収穫祭」を含む館内展示や報告書などの印刷物として公表するように努めてほしい。

・市民との協働による調査研究はとても大切な活動だと思います。市民学芸員が活動の中心であると思いますが、興味がある市民が臨時に参加することはできるのでしょうか。

・市民との協働は、地域博物館活動の根幹をなすものであり、一層の取り組みに期待したい。

有識者評価：3.0

３－1b　市民との協働による資料収集・整理

【主な取組】

・考古分野：相模原縄文研究会と協働で寄贈された考古資料の整理を実施。

・民俗分野：福の会との協働で寄贈された上溝番田の神代神楽資料の整理を実施。

・生物分野：相模原植物調査会と協働で標本作製・整理を実施。相模原動物標本クラブと協働で、冷凍保存していた鳥獣の標本化を実施。

・地質分野：相模原地質会と協働でお茶の水女子大より寄贈された標本の整理を実施。

・天文分野：相模原市立博物館天文クラブと協働で、季節を代表する天体や肉眼彗星となったポン・ブルックス彗星等について撮影し、資料化。

自己評価：3

【有識者意見】

・団体（調査会など）だけでなく、一人ひとりの個人の方々との協働が見えると、市民の主体的資料の収集保管が推進されると思う。

・博物館は集団学習の場ではない。学芸員は学習指導者ではない。利用者が自らの興味と自己教育の目標に従い、市民と共有し次世代に伝達するコレクションを実現する場である。博物館の施設や設備、職員（学芸員）はその条件として整備したのであり、博物館基本構想も「市民の研究センターとしての役割」を市民に約束している。

・市民との協働による資料収集や整理作業は裏方での地味な活動ではあるが、博物館活動を支える大事な位置を占めるので、今後も連携して継続してほしい。

・収集資料の整理は今後の活用の上で重要なので、博物館のノウハウを生かして進めて行ってほしいと思います。

・市民との協働は、地域博物館活動の根幹をなすものであり、一層の取り組みに期待したい。

有識者評価：3.1

３－２ 市民協働による展示教育普及事業

段階評価：3.4

３－2a 市民との協働による教育普及事業

【主な取組】

・博物館の資料収集や整理、保存等の専門領域をはじめ、展示教育普及事業に至る活動を協働で実施。

・市民学芸員：学習資料展の企画・準備と関連事業を協働で実施。

・考古分野：津久井城市民協働調査グループと協働で、通年の講習会や発掘調査およびその成果速報展示の準備・設営を実施。相模原縄文研究会と協働で、縄文土器の圧痕調査についてのミニ展示の準備・設営、ワークショップを実施。

・民俗分野：福の会と協働で関東大震災展の準備作業の実施。

・生物分野：相模原植物調査会及び相模原動物標本クラブの協力により、ワークショップに使用する素材収集や、作成した標本を企画展等に使用。

・地質分野：相模原地質研究会と協働で講座や教室の準備と運営、地質企画展の準備作業の実施。

・天文分野：博物館天文クラブと協働で天文企画展の準備作業と関連事業を実施。

自己評価：3

【有識者意見】

・団体（調査会など）だけでなく、一人ひとりの個人の方々との協働が見えると、市民の主体的調査研究が推進されると思う。

・博物館は集団学習の場ではない。学芸員は学習指導者ではない。利用者が自らの教育目標に従い、自ら得た知識や技術を他者と共有する場であり、そしてその場を通して新たな自己実現を図るための教育目標を得る場である。

・博物館活動の主体者である市民と共に創り上げていくことが大切です。

・神楽関係の資料については、さっそく令和6年度の企画に反映されるようで楽しみにしています。その他の研究についてもその成果をミニ展示等で生かしてください。

・市民との協働は、地域博物館活動の根幹をなすものであり、一層の取り組みに期待したい。

有識者評価：3.0

３－2b 市民との協働による博物館活動の成果発表

【主な取組】

・市民による調査研究活動の成果発表の場である「学びの収穫祭」を開催。活動成果の発表、市民の会相互理解の推進、情報交換の場の確保。

・11 月 18 日：口頭発表

・11 月 18 日～11 月 30 日：ポスター展示

・発表団体数、発表件数等は下記のとおり。

・口頭発表：参加団体・個人数 8 団体、1 個人、発表件数 11 件

・展示発表：参加団体・個人数 17 団体、2 個人、発表件数 31 件

・発表団体名：

相模原市立博物館市民学芸員、相模原市立博物館天文クラブ、相模原縄文研究会、相模原植物調査会、相模原地質研究会、相模原動物標本クラブ、福の会、麻布大学獣医学部 野生動物学研究室、麻布大学ミュゼット、大野村いつきの保育園、神奈川県立相模原高等学校 科学研究部、神奈川県立相模原弥栄高等学校 サイエンス部、光明学園相模原高等学校 理科研究部、昆虫文化を子供たちに伝える会、相模原市自然環境観察員、城山公民館城山エコミュージアム委員会、東京工業大学附属科学技術高等学校 科学部、東京都立大学 都市環境学部 地理環境学科

自己評価：4

【有識者意見】

・「学びの収穫祭」での成果発表は有意義であり、是非継続することを期待するが、ポスター展示にとどまるのではなく、発表要旨集などの印刷物として成果を記録・保管していただきたい。

・市民協働は社会教育の本旨だと感じます。

・「学びの収穫祭」はネーミングも内容も素晴らしいと思います。今の発表の中心がポスターセッションなので、その特徴を生かして参加者と研究者が交流する場として生かしていって欲しいと思います。

・「学びの収穫祭」も博物館の伝統行事となり、参加団体が拡大していることは喜ばしい。市民との協働は、地域博物館活動の根幹をなすものであり、一層の取り組みに期待したい。

有識者評価：3.8

４ 市関連施設・機関との連携

４－１ 関連機関との連携

段階評価：3.8

４－1a 他機関・団体への講師派遣、協力

【主な取組】

・他機関や団体からの講師依頼件数及び参加者延べ人数は、59 件 1,722 人。（学校への出前事業を除く。学校への出前事業 4-2a）

・「和5年度第 1 回神奈川県カワウ被害防除対策協議会　作業部会」からの依頼による、会議出席。

・「考古学フォーラム事務局」からの依頼による、『考古学フォーラム 26 号』の原稿執筆。

・環境情報センターの自然環境観察員制度や分科会調査に対し、専門の立場からアドバイスや会議出席。

・ミニ展「関東大震災と相模原」において、神奈川県博物館協会　震災 100 年プロジェクトを通じてプロジェクト参加館 21 館園と連携した共同広報の実施。

・「古民家でおひな様　春のおでかけスタンプラリー2024」について、文化財保護課、相模湖まちづくりセンター、田名財産管理委員会と連携して実施。

・各種団体の役員等は下記のとおり。

　・河川水辺の国勢調査アドバイザー

　・小田原市郷土文化館協議会委員

　・全国野生生物保護活動発表大会　審査会審査員

　・「神奈川自然誌資料　第 45 号」編集委員

　・全国野生生物保護活動発表大会　受賞式・発表大会アドバイザー

　・令和5年度自然史標本データベース神奈川委員会会議

　・日本地質学会代議員

　・地質学会関東支部幹事

　・神奈川地学会幹事

　・令和 5 年度愛鳥週間野生生物保護功労者表彰審査員

　・調査業務委託のプロポーザル方式審査会選考委員

　・縄文時代文化研究会役員

自己評価：4

【有識者意見】

・学芸員は他機関・団体への講師派遣や会議・委員会出張なども大事な業務と捉え、オーバーワークにならない範囲内で協力に応えていただきたい。

・他の機関や団体への講師派遣や交流は、博物館職員の見識を広める上でも重要であり、外部から改めて自身の博物館を見つめる機会になるので、無理のない範囲で積極的に行っていただきたいと思います。
・地域の社会教育施設の市民協働は地域住民の高齢化が大きな課題となっています。しかし手立てが見つけられずにいます。
・学芸員が、専門家としての役割を十分果たせる体制づくりを引き続き進めてほしい。

有識者評価：3.7

4－1b 他機関での展示

【主な取組】

・「麻布大学いのちの博物館と相模原市立博物館の連携に係る覚書」に基づき、麻布大学いのちの博物館で下記のミニ展示を開催。
  ・「相模原ふるさといろはかるた」、来場者 1,155 人
  ・「相模原にもあった！？徳川家康ゆかりの地」、来場者 1,495 人
  ・「コクゾウムシが教えてくれた！～縄文土器研究最前線～」、来場者 2,985 人
  ・「富士のある地球」、来場者　386 人
  ・「市民学芸員かわら版」、来場者 914 人（令和 6 年度までの継続事業、来場者数は 1 月 23 日～3 月 31 日）
・NHK 大河ドラマ“どうする家康”関連巡回ミニ展示「相模原にもあった！？徳川家康ゆかりの地」を下記の会場で巡回展示。
  ・吉野宿ふじや、来場者 135 人
  ・【再掲】麻布大学いのちの博物館、来場者 1,495 人
  ・老人福祉センター若竹園、来場者 1,115 人
  ・れんげの里あらいそ、来場者 412 人
  ・尾崎咢堂記念館、来場者 123 人
・ミニ展示「コクゾウムシが教えてくれた！～縄文土器研究最前線～」を総合学習センターで出張展示。来場者数は 6,019 人。
・伊勢市にある尾崎咢堂記念館と相模原市立尾崎咢堂記念館との連携事業として伊勢×相模原　尾崎咢堂記念館同時展　出張ミニ企画展「憲政擁護運動と尾崎行雄（咢堂）」を開催。来場者数は 184 人（相模原市）、92 人（伊勢市）。

自己評価：4

【有識者意見】

・博物館のミニ展示の巡回は非常に良い取組であったと思う。今後も継続して実施をお願いしたい。尾崎咢堂記念館や吉野宿ふじやに足を運んでもらう良いきっかけとなっただけでなく、遠方の市民に博物館を周知する機会になったと思う。
・来場者数だけの記載でなく、一日あたりの来場者数がわかるように展示日数の記載もお願いしたい。
・麻布大学いのちの博物館での出張展示等新たな試みがあり、評価できる。
・なかなか博物館に足を運べない地域の方々にも博物館の魅力を伝える点で重要な活動だと思います。合わせて他機関へのアピールや来場者の増加につながればと思います。
・改正博物館法でも地域の関係機関との連携強化が謳われているが、今後も積極的に推進されることを期待したい。

有識者評価：3.9

４－1c　他機関と連携した事業

【主な取組】

・相模原市の他の部署及び市内外の様々な機関等と連携して、ミニ展示、公開講座・講演会等、体験イベント、スタンプラリー等、多岐にわたる内容で活動を展開。その具体的な連携相手と内容は下記のとおり。

【出張展示及びその関連イベント】
・総合学習センター
・市立図書館
・老人福祉センター若竹園
・れんげの里あらいそ
・麻布大学いのちの博物館

【公開講座・講演会等】
・生涯学習センター
・中央地区宇宙教室実行委員会
・JAXA
・日本スペースガード協会
・宇宙フェスタさがみはら実行委員会
・日本プラネタリウム協議会

【体験イベント・コンサート等】
・観光・シティプロモーション課
・相模川自然の村体験教室
・市民会館
・相模原市観光協会
・JAXA

【スタンプラリー】
・文化財保護課

自己評価：4

【有識者意見】

・他機関での講演会や各種展示会などは、普段博物館に来ない市民へ博物館の存在を印象付ける良い機会となる。今後も積極的に講師派遣や展示会、イベント開催などを推進してほしい。

・市内には様々な機関があり、近隣住民は興味を持っていますが中々訪ねる機会を持てないものです。博物館が連携して足を運んでいただく機会を作ることは、双方に有益だと思います。

・改正博物館法でも地域の関係機関との連携強化が謳われているが、対象機関も拡大しており、今後もさらに連携が推進されることを期待したい。

有識者評価：3.9

４－２ 学校等への学習支援

段階評価：3.1

４－2a 出前授業

【主な取組】

・保育園・小中学校・高校・大学等からの講師依頼件数及び聴講者延べ人数は、31 件 1,938 人。主な内容は下記のとおり。

・保育園：鳥のおはなし

・小学校：カイコのはなし、道具の移り変わり、総合的な学習

・中学校：相模原の歴史、相模原の絶滅危惧生物、地層観察

・高校：ホタル観察会、バードウォッチング、近代以降の相模原や津久井の歴史

・大学：鳥類学実習、動物学実習、博物館見学実習、相模原を知ろう

自己評価：3

【有識者意見】

・専門家である学芸員から話を聞くことは、幼児から学生までが地元の歴史・文化や博物学に触れる良いきっかけとなる。各学校だけでなく、他の多くの教育施設をはじめ、地域の様々な施設と連携を強化すべきである。

・出前授業があるのを知らなかったので、小中学校にもっとアピールしても良いのではないかと思います。

・保育園から大学まで幅広く実施されており、それぞれの世代がどのようなことに興味を持ち、どのように反応するかを直接把握できることは、博物館での企画内容を検討する上で大いに役に立つものだと考えます。忙しい中の出張でしょうが今後も実施してください。

・学童保育への出前授業の試みはいかがでしょうか。

・学芸員の数が限られており、市内小中学校全校に対するサービスは厳しいと思われる。博学連携をさらに推進するためには、学芸員の増員を視野に入れる必要がある。

有識者評価：3.0

4－2b 資料貸出による学習支援

【主な取組】

・博物館資料の貸出しキットの市内小中学校への貸し出しは 8 件。内容は下記のとおり。
　・縄文体験キット（小学 6 年生 社会「歴史」）2 件
　・地層剥ぎ取り標本（小学 6 年生 理科「大地のつくり」）2 件
　・和傘、下駄、背負子ほか全 5 点（小学 3 年生 社会「わたしたちの市のあゆみ」）1 件
　・糸車（小学 1 年生 国語「たぬきの糸車」）1 件
　・水筒、ポップアップトースター、セルロイド文具等（小学 3 年生 社会「変わる道具と昔のくらし」）1 件
　・昭和ってすごい時代体感キット（小学 3 年生 社会「むかしの道具しらべ」）1 件
・貸出しキットの利用について、拡大役員会（市内小学校校長会）で周知した。
・貸出しキットを利用した出前授業を実施し、その様子を職員ブログで情報発信した。

【市民の意見】

（貸出キットを利用した教員からの意見）
・実物に触れることにより、子どもたちでなく教員も貴重な体験ができたと感じている。
・写真だけだと質感が分からないが、実物を見ることにより、質感まで体感できたことは非常によかった。
・日常で昔の道具等をみる機会は少ないため、実物に触れることでイメージを掴めたようだ。

自己評価：3

【有識者意見】

・貸出しキットの存在を知らない教員もいると思うので、貸出可能なキットの一覧表の公開と共に利用を促す広報活動も必要ではないか。
・先生方があまり利用されないのにはどんな理由がるのか？HP から貸し出し方法を調べられるのか？
・キットにして貸し出すというアイディアは面白いと思います。私も個人的にそのキットを使って学習してみたいです。
・出前授業を同じく、知らないという学校が多いのではないでしょうか？実物を見られる貴重な機会だと思います。もっと学校へ周知してもいいのではないでしょうか。
・「貸出キット」は実際に利用すればその良さが分かってもらえるが、実際の貸出が伸びないのは残念です。学校では年間の指導計画があるでしょうから、突発的に学年の一クラスだけが利用するようなことは難しいと思います。現場の教員の皆様に協力（教員研修受入の中ででも）をお願いし、年間の指導計画とキットの対応表のようなものを作成してはどうでしょうか。
・学校現場の事情もあるとは思うが、学校数の割に引き続き資料の貸し出し件数が少ない。現場の先生方の理解と周知が一層必要と思われる。

有識者評価：2.7

4－2c　見学・職業体験・教員研修・博物館実習生の受入

【主な取組】

・学校教育支援に対応した学習資料展を毎年開催。令和 5 年度は「子どもの遊び　いま・むかし」と題し、各時代のおもちゃ・遊び道具の変遷や子どもたちが遊ぶ姿について紹介。

・小中学校・幼稚園・保育園等へのプラネタリウム番組の学習投影や展示学習。利用件数 132 件。

・中学生の職業体験の受入。8 校（24 名）を各校 1～3 日間の受入。団体利用対応、資料整理、標本作成作業。

・博物館実習生の受入。共通実習 3 日間、専門実習 6 日間。受入大学数 17 大学、受入人数 20 名。

・教員の 5 年目研修「社会体験研修」の受入。神奈川県立弥栄高等学校の教員 1 名。

【市民の意見】

（展示見学者アンケートより）

・黒電話は、教科書でしか見たことがなかったから、こうやって実際にふれて感じられることがありがたいと思いました。

・昔と今の遊びや小学校の校歌を見ることができて、なつかしく思いました。

・市民学芸員の遊びの思い出は、自分も懐かしいものもあり、共感できた。

・おじいさん、おばあさんが実際に昔の遊びを一緒にやって教えてくれるとうれしい。竹馬とか、しょうぎとか、展示だけでなく、実際にやれると良い。

自己評価：4

【有識者意見】

・幼稚園児から大学生ならびに教員までが見学や研修できる受け皿があるのは、博物館が持つ特色でもある。学芸員は業務内容が増えて負担も多くなるが、今後も受入者に対して丁寧に対応していただきたい。

・「昔」とはいつ頃のことを指すのでしょう。私自身が「おばあさん」と呼ばれる年齢（68歳）になったので、多分昭和時代全般が「昔」に入るのでしょう。今の子ども達に自分が子供のころに遊んだ遊びを伝えるとしたら何でしょう・・・・ひたすら神社で忍者ごっこをしたり、階段をパイナツプル（じゃんけん）で上り下り。駄菓子屋めぐりをして食品添加物だらけの駄菓子で口の中が真っ赤っか。室内ではぬり絵、人形遊び。「りぼん」「なかよし」「マーガレット」の少女漫画雑誌を回し読み・・・・あまり今の子ども達と「一緒に遊ぶ」タイプの遊びではなさそうです。

・市民の意見に、「おじいさん、おばあさんが実際に昔の遊びを一緒に教えてくれるとうれしい」とありました。異世代間の交流の場や高齢者の社会的活動への参加の意味で、良い取組を計画できるのではないでしょうか。北名古屋市民俗資料館の取組が参考になると思います。

・学芸員数に比して、これらの受け入れは積極的な行われていると言える。地元大学として、博物館実習生の受け入れをして頂いており、感謝している。

有識者評価：3.7